

JMOOC ワークショップ 「ポストコロナ禍時代の大学教育」

コロナ禍での早稲田大学の対応と ポストコロナにおける大学教育

早稲田大学総長
田中愛治

2020年7月4日





コロナ禍での対応・施策の背景にもった考え方

✚ 3つの優先すべき目標を確認

- (1) 学生と教職員の生命と健康を守る
- (2) 教育を確実に学生に提供する
- (3) 研究をどのような厳しい環境でも継続する

★危機管理はMin-Max Regret原則（最大の後悔を最小にする）

- ✚ 海外からの留学生 約8千名（うち5千名は入国できない）
- ✚ 首都圏以外出身の学生 約1万7千名
- ✚ 合計 約2万2千名の学生は、大学に通学できない



建学の精神に則り、SDGsの1つの目標を重視

✦ 建学の精神 創立者・大隈重信「早稲田大学教旨」

1. 学問の独立 → 研究の早稲田
2. 学問の活用 → 教育の早稲田
3. 模範国民の造就 → 貢献の早稲田

「一身一家一国家のためのみならず、進んで
世界に貢献する抱負が無くてはならぬ」 = 利他の精神

✦ 国連のSDGs (Sustainable Development Goals)の1つの目標 “No one will be left behind.”

「誰一人、取り残さない」 = 弱者救済の精神 = 利他の精神



コロナ禍の時期の対応(1)：2020年2月～5月5日

- ✦ 2月27日 卒業式・入学式の中止を決定、
- ✦ 3月9日 授業開始は早くとも4月20日以降と発表
- ✦ 3月24日 授業開始を5月11日と発表
- ✦ 4月2日 春学期の授業は全てオンラインで実施と発表
- ✦ 4月8日 全てのキャンパスの閉鎖－6月22日部分解除
- ✦ 4月24日 経済的に困窮している学生への緊急支援金(10万円)と緊急支援策（PC500台，WiFiルーター900台の無償貸与等）を決定



コロナ禍の時期の対応(2)：2020年5月～7月

- 5月5日 「学費に関する考え方」
- 5月5日 「経済的に困窮している学生へ」のメッセージ発信
- 5月26日 前日の政府の緊急事態宣言解除を受け、
6月1日よりキャンパス閉鎖を部分的に解除
一卒論・修論・博論執筆者の入構を許可
- 6月15日 図書館と全学共通PCルームの制限付き利用開始
- 6月22日 各キャンパスへの立入禁止の部分的解除
学生へ、活動の自粛継続の要請
- 7月3日 春学期の期末試験もオンラインで実施すると決定



コロナ段階的収束の時期：2020年9月～2021年3月

- ✦ 全ての講義はオンラインで行う
- ✦ 実験とゼミ、討論を必要とする科目は対面で行う
- ✦ 教室の配置の工夫：
 - 大教室・中教室をゼミ、討論に空ける
 - ゼミ室・小教室は「3密」になるので使用しない
- ✦ 時間配置の工夫：
 - Real-Timeのオンライン授業と対面授業の時間割を適切に配置
 - On-demand授業を活用する



ポスト・コロナの時期：2021年度or2022年度～

❖ 大学の授業のあり方の変化(オンライン教育の活用)

- (a) 全ての講義はオンライン化
- (b) 実験、ゼミ、ディスカッションの科目は対面で実施
- (c) 「反転授業」の活用
- (d) 必修の基盤教育の全面的オンライン化（2008年から部分的に実施してきたのを、全学に拡張）

❖ 早稲田大学でのオンライン授業の歴史：

2006年～人間科学部通信教育課程

2008年～全学基盤教育でon-demand型オンライン教育開始

「学術的文章の作成」 「数学基礎」 「統計学→データ科学」



ポスト・コロナ社会におけるキャンパスと働き方

- ✦ 教室のあり方が変わる、建物の設計が変わる
大教室が不要になる； 中・小教室のみでよくなる
外気を取り入れる窓の大きい教室を用意する
- ✦ キャンパスの設計が変わる→限られた土地の有効活用
- ✦ 学生ラウンジなどのスペースを大きく取る
- ✦ 学生・教職員がラッシュアワーに移動する必要がなくなる
- ✦ 在宅勤務・出勤のハイブリッド化
- ✦ 遠隔による会議の活用ーZoom等
- ✦ 遠隔でも雑談をする時間帯・空間の確保が必要



国際会議、留学のあり方が変わる

✦ 国際会議、国際学会の半数はオンラインで可能になる

✦ これまでの経験：

(1) Economic World Forum(ダボス会議) 主催の学長会議

University Leaders Dialogue 4月～、5月半ばから毎週

(2) APRU (Asian Pacific-Rim Universities) 学長会議 2回

(3) U21 (Universities 21 Century) 学長会議 1回

✦ Study Abroad Online オンライン留学の実施：

単なる科目の履修だけでなく、学生の交流も企画

香港中文大学の学長が提唱→早稲田も参加予定

ポストコロナに向けた新たな国際交流の方向性

- 「たくましい知性」と「しなやかな感性」を育むことが早稲田大学の教育においては重視されている。「しなやかな感性」を身につける上で多様性と社会的包摂の重要性を理解することが必要であり、留学を通じた国際教育が有用であると考えてきた。

- 海外渡航が逡巡される状況下においても、「学生のGlobal Perspectiveを育む」ための歩みを止めてはならない。
- 従来の留学を代替・補完する新たな施策を、海外協定校・大学コンソーシアム等との連携により開発する。
- 海外渡航を伴わないバーチャルな仕組みは、障がいや経済的な理由で留学が困難な学生にも新たな可能性を与える。

連携検討候補

- 大学間（箇所間）協定校
- 大学間（箇所間）協定校以外の高等教育機関
- 非高等教育機関



連携の類型

共同開発型

- 大学間協定校等とプログラムの共同開発
- 学費相互免除

テーラーメイド型

- 本学の求めに応じ、大学間協定校等がプログラムをアレンジ
- テーマ、開催時期、難度、日数等を調整可能

レディーメイド型

- 既存・パッケージ化されたプログラムに参加
- 短期集中プログラムの場合、アカデミックカレンダーの違いから、本学授業期間中に開催される可能性が高い

正規生に対する「新たな国際教育」プログラム案

共同開発

A) 授業オンライン聴講（派遣を想定、本学授業期間中、学籍「在学」）(On-line cross registration)

- ・ 海外協定校の正規科目に聴講枠を確保し、ライブまたはオンデマンドにより聴講する。
- ・ 成績評価は海外協定校の基準に基づき協定校側が行い、本学においては学生所属箇所が単位認定する。

B) : 科目相互設置型オンライン共同ゼミ（派遣・受入、本学授業期間中、学籍「在学」）

- ・ 海外協定校との教員間の協議に基づきライブによる共同ゼミを開講する。
- ・ 科目はそれぞれの大学に設置し自大学の科目として単位を付与する。
- ・ 毎回すべてを共同ゼミ形式で実施するか、学期中数回を共同ゼミとするかは教員間で協議し決定する。

C) : 半期以上のオンライン交換留学（派遣・受入、本学授業期間中、学籍状態「留学」）(Hybrid)

- ・ 質の高いフルオンライン授業を実施できる協定校を見定め、半期以上の交換留学を実施。
- ・ オンライン授業と渡航を伴う短期集中授業、フィールドトリップ等との組合せや、半期オンライン＋半期渡航等の組合せを検討。

テラーメイド

D) : 短期集中授業（派遣、春・夏季休業期間、学籍「在学」）

- ・ 本学の求めに応じ、大学間協定校等がプログラムをアレンジ。
- ・ 実施時期は本学の春・夏の長期休業期間。
- ・ テーマ、開催時期、難度、日数等を調整可能な一方で、時期的に日本人学生の割合が高い。

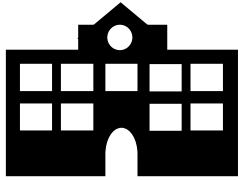
レディーメイド

E) : 短期集中授業（派遣、本学授業期間中、学籍「在学」）

- ・ 現状の協定校等のプログラムの公募紹介。
- ・ 既存・パッケージ化されたプログラムに参加する。
- ・ サマープログラムの場合、6～7月に実施される場合が多く、本学授業期間中に開催される可能性が高い。

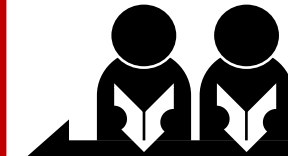
「新たな国際教育」の検討課題

協定校が提供するプログラム内容



- 使用言語
- 開講期間（セメスター、数日間（集中講義型）、単日）
- 履修時間
- テーマ、分野
- 難度（コースナンバーとの対応関係など）
- Virtual Exchangeの実行（同期型学習の比重）

- 時差の影響
- プログラムに占める本学学生の割合（本学学生比率100%のプログラムは、Global Perspectiveの涵養に繋がるか？）



早稲田大学の対応準備

- （単位付与の場合）科目設置箇所
- （単位認定の場合）テーマ・分野と参加学生が所属する学部（研究科）との接続性

